

研究大学コンソーシアム の活動について 2021

研究大学コンソーシアム全体会議議長
山本 進一

研究大学コンソーシアムとは？

研究大学コンソーシアム（RUC:Research University Consortium）の概要

- 発足：平成29年8月4日
- 構成：研究力強化に積極的に取り組む大学の研究担当理事または副学長の集まりとして組織。現在は36機関で構成。
- 目的：研究力強化に取り組む大学及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）がコンソーシアムを形成し、**各大学等における先導的取組や課題の発信・共有によりネットワーク化を推進**するとともに、それら取組の**全国的な普及・定着**を目的とする。

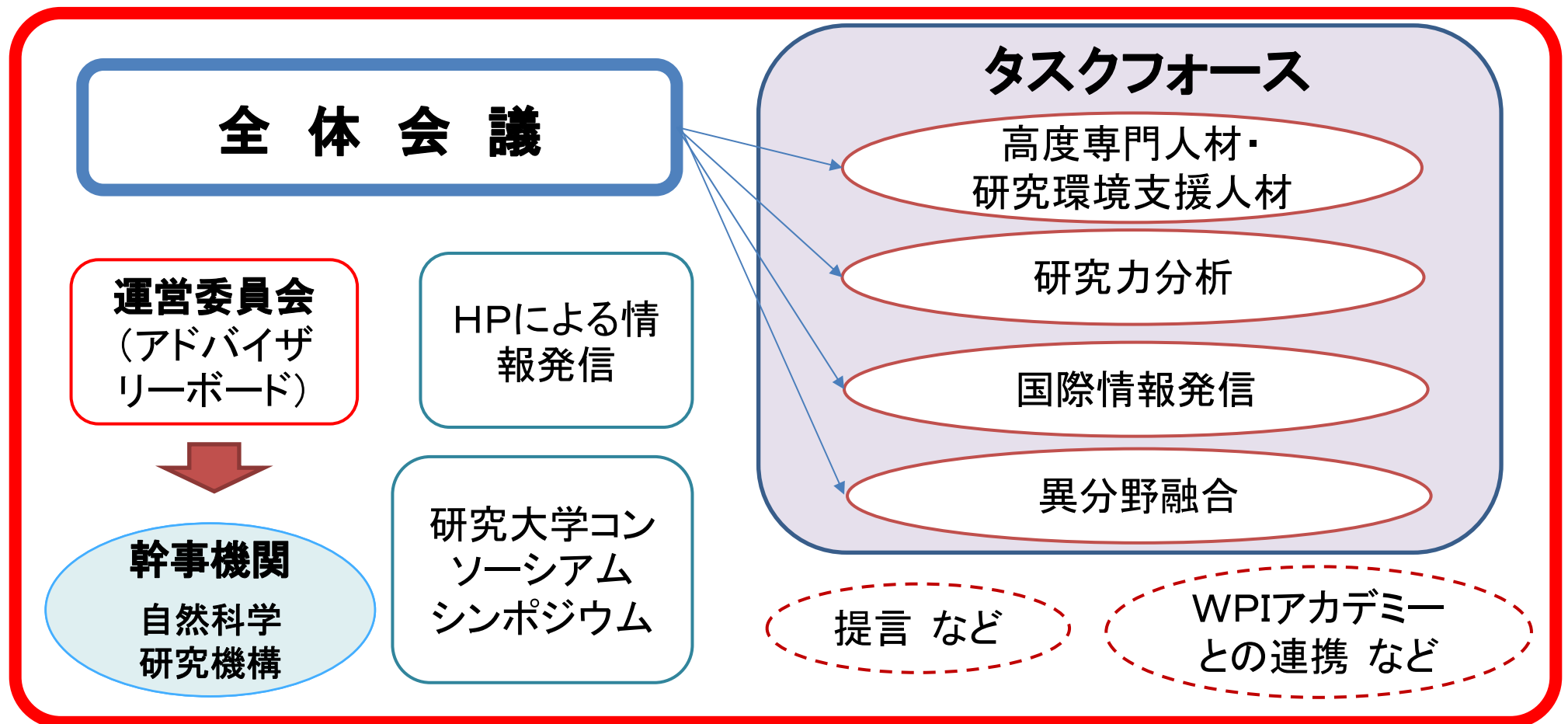
（「研究大学コンソーシアム規約」（平成29年8月4日 研究大学コンソーシアム全体会議）より）

- 活動：
 - 会議体での好事例の共有
 - **HPやシンポジウム**を活用した情報発信・共有
 - 各大学等における共通の課題等をテーマとして、**タスクフォース**を設置し、必要に応じ文部科学省の関係部局も交えるなどして、俯瞰的に討議

研究大学コンソーシアム構成機関

1	北海道大学	19	大阪大学
2	東北大学	20	神戸大学
3	筑波大学	21	岡山大学
4	千葉大学	22	広島大学
5	東京大学	23	山口大学
6	東京医科歯科大学	24	徳島大学
7	東京農工大学	25	九州大学
8	東京工業大学	26	九州工業大学
9	電気通信大学	27	長崎大学 (2021年度加入)
10	横浜国立大学 (2021年度加入)	28	熊本大学
11	新潟大学	29	北陸先端科学技術大学院大学 (2021年度加入)
12	金沢大学	30	奈良先端科学技術大学院大学
13	福井大学	31	東京都立大学
14	信州大学	32	早稲田大学
15	名古屋大学	33	慶應義塾大学
16	名古屋工業大学	34	自然科学研究機構
17	豊橋技術科学大学	35	高エネルギー加速器研究機構
18	京都大学	36	情報・システム研究機構

研究大学コンソーシアム 概要



※幹事機関を自然科学研究機構が担い世話役を務めるとともに、議論に際しては継続的な議論を行うようにつとめる。

※自然科学研究機構による運営にアドバイスをするアドバイザーリーボードとして運営委員会を設置。

運営委員会構成機関 (計10機関)

筑波大学	東京大学	名古屋大学	京都大学	大阪大学
岡山大学	九州大学	熊本大学	奈良先端科学技術大学院大学	自然科学研究機構

研究大学コンソーシアム シンポジウム・全体会議

○研究大学コンソーシアムシンポジウム（第4回）

➤ 日 時: 令和2年11月13日(金) (オンライン開催)

「新型コロナウイルス感染症災禍からの“新しい研究スタイル”による研究力向上に向けて」をテーマとして、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)との共催によりオンラインで実施し、延べ500名を超える参加者があった。

・基調講演及び文部科学省による話題提供

・パラレルセッション

「With コロナ時代の国際人材交流について」

「コロナ禍における URA の研究支援活動の好事例」

「新しい研究情報発信の在り方と課題」

他



パラレルセッションの様子

○全体会議（第6回）

➤ 日 時: 令和3年3月26日(金) (オンライン開催)

➤ 議題:

○令和2年度活動報告及び令和3年度活動計画について

○研究大学コンソーシアムへの新規加入について

○「URAによる研究DXを推進するデータの整備・構築」について

○INORMS世界大会について

○リサーチ・アドミニストレーター認定制度にかかる議論のまとめについて

研究大学コンソーシアム タスクフォース

(1) 高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するTF 座長：山本 進一 (豊橋技術科学大学／自然科学研究機構)

目的:URAを含む高度専門人材・研究環境支援人材の活用について、補助金事業終了後も日本の研究現場への定着をはかるため、今後の、大学等への内在化、人材流動化、などについて、大学執行部の立場から、好事例やエビデンスの収集、必要な方策に関する情報共有・議論を行う。

(2) 研究力分析の課題に関するTF 座長：菊田 隆（大阪大学）

目的:各大学の研究力の特徴を多角的な視点で把握するため、研究力分析指標を活用した研究IR、戦略立案に関して、各大学・研究機関における好事例ならびに必要となる関連情報・エビデンスの収集と共有を目的とする。

(3) 国際情報発信に関するTF 座長：今羽右左 ディヴィッド 甫（京都大学）

目的:とくに国際情報発信に関して、これまで、東京大学・京都大学と自然科学研究機構の国際広報担当者が中心となり、AAASのEurekAlert!に共同加入するなど国際情報発信プラットフォームをつくり、連携して日本の研究大学における国際情報発信をもりたててきた。これを引き続きこのコンソーシアムの中でタスクフォースをたて、プラットフォームの運営を行っていくとともに、国際情報発信に関する好事例等の情報共有をすすめていく。

(4) 異分野融合TF 座長：新田 元（東京工業大学）

目的:「異分野融合研究の推進」について、URAやIRerらによる議論を行い、異分野融合の取り組みの好事例を共有するとともに、異分野融合の研究IR、可視化、評価手法の検討や、異分野研究テーマリストの作成等の取り組みを実施する。

高度専門人材・研究環境支援人材の 活用に関するタスクフォース

座長

豊橋技術科学大学 理事・副学長

自然科学研究機構 客員教授

山本 進一

高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース

リサーチ・アドミニストレーター等の質保証制度の実施(2022年度も引き続き参画・協力)

文部科学省産業連携・地域支援課及び文科省補助金事業(金沢大学)

(RUCからの参加者:山本全体会議議長、自然科学研究機構・小泉特任教授、

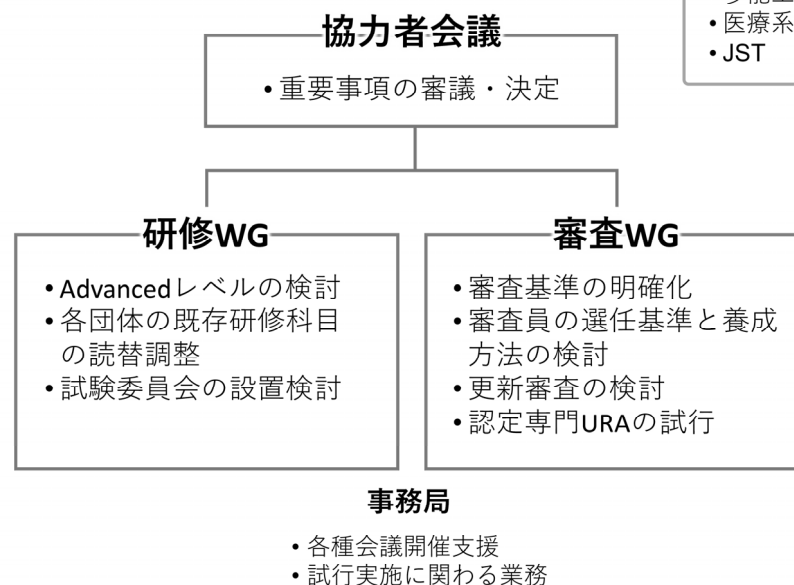
東京工業大学・新田研究戦略部門長、岡山大学・宇根山主任URA)

事業の実施体制

事業の検討体制

- 質保証の実施における課題の検討
- 試行の実施とそれに基づく改善案の検討

- URAの実務等に関する有識者
- リサーチ・アドミニストレーター協議会
- 研究大学コンソーシアム
- 学術研究懇談会
- 大学技術移転協議会
- 多能工型研究支援人材育成コンソーシアム
- 医療系産学連携ネットワーク協議会
- JST
- 等



URA関係団体の協力を得たAll Japanの体制で事業を実施

研究力分析の課題 に関するタスクフォース

座長

大阪大学 経営企画オフィス

IR部門 シニア・リサーチ・マネージャー

菊田 隆

【ご協力依頼】 研究力分析IRに関する事例集の制作

○研究力分析IRに関する事例集(2021年度版)

第一部 各大学における研究力分析IRに関する事例集を募集する予定

座長: 中島 聡 (奈良先端科学技術大学院大学)

ハンゼン・マルク (東北大学)

第二部: 研究力分析に関するトピックに関する記事作成

座長: 平井 克之 (新潟大学)

矢吹 命大 (横浜国立大学)

編集委員会委員:

菊田 隆(大阪大学、TF座長)、ハンゼン・マルク(東北大学)、矢吹 命大(横浜国立大学)、

平井 克之 (新潟大学)、池田 虎三(金沢大学)、上田 盟子(熊本大学)、

渡邊 優香(九州大学)、中島 聡(奈良先端科学技術大学院大学)

小泉周、壁谷 如洋、押谷隆則(自然科学研究機構／事務局)

○また、Scopus(Elsevier)ならびにWoS(Clarivate)の研究力指標のデータを購入し共有した。

文部科学省 研究振興局 大学研究基盤整備課などとの共有。

エルゼビアのデータはTFメンバーと共有し、分析を行う。

研究力分析の課題に関するタスクフォース

○THE世界大学ランキングへの提案など THE/RUCダイアログ 2021.4.27開催



THE 世界大学ランキング チーフ・データオフィサー
Duncan Ross 氏

- ・2023世界大学ランキングに関する指標変更の検討状況
- ・THE世界大学ランキングへアドバイザーの提案などを実施

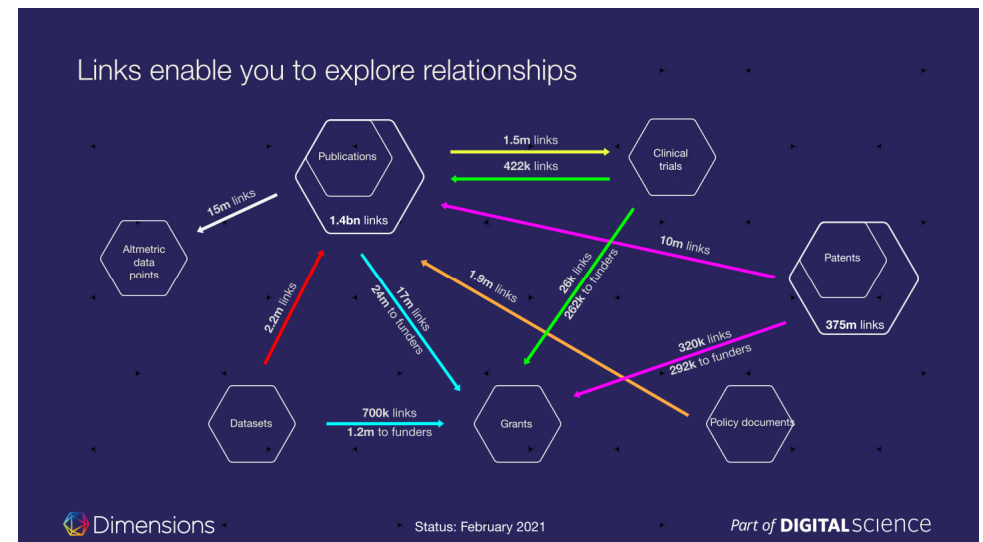
○Nature Index勉強会 2021.10.14開催

What is the Nature Index?

- A **database** of author affiliation data drawn from primary research articles in a select group of **82** high quality natural science journals.
- It is a close to **real-time indicator** of high quality research output and collaboration in the natural sciences at the institutional, national, regional and international level. It covers universities, government research institutes, companies, NPO/NGOs and the health sector
- Updated monthly with a 12-month rolling window of data **openly available** under creative commons license at www.natureindex.com
- Focused on **natural sciences** (but also covers some research in medical & health sciences and engineering)
- Two key metrics: **Article Count & Share**

Some Statistics

- ~ 60,000 articles per year
- ~38,000 parent institutions
- Nearly 90% of articles are NOT in *Nature* journals
- Covers about 4-5% of articles in natural sciences
- Account for nearly 30% of citations in natural sciences



国際情報発信 に関するタスクフォース

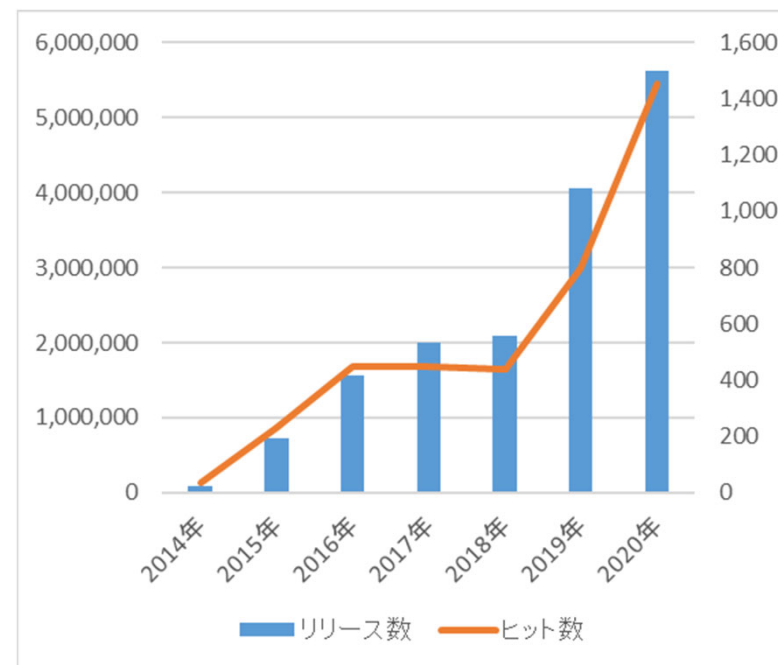
座長

京都大学国際広報室長
今羽右左 デイヴィッド 甫

国際情報発信に関するタスクフォース

○EurekAlert!との連携による国際情報発信力の強化

大学等の国際情報発信力を強化・促進するため、引き続き、AAAS(米国科学振興協会)とも連携し、EurekAlert!を国際情報発信プラットフォームとして活用するとともに、英文プレスリリース作成支援サービス(NRAP)の利用などの取組みを進めた。EurekAlert!におけるリリース数、ヒット数とも事業開始年(2014年)に比し、飛躍的に増加した



○以下のような会合を開催するとともに、メール等により情報交換・検討・議論を行っている。

・Japan SciCom Forumの支援(2021年10月26～27日)

会場:オンライン

スポンサー:ELSI、EurekAlert!、MIRATUKU、SpringerNature

ジャパン・サイコム・フォーラムは、日本から世界に向けた科学コミュニケーションやアウトリーチに取り組む人のためのコミュニティを作るために、2018年にスタート。報道関係者、ジャーナリスト、研究者、学生、翻訳者、URA など、国内外を問わず参加可能。(参加登録は無料)

国際情報発信に関するタスクフォース

AAASによる英文プレスリリース作成支援サービス(NRAP)
を引き続き提供



News Release Assistance Program

EurekAlert! is a non-profit, global science news consortium operated by the American Association for the Advancement of Science (AAAS). It disseminates science news to reporters and the public on behalf of scientific organizations worldwide. The News Release Assistance Program (NRAP) is designed to help Public Information Officers (PIOs) with limited resources or a small number of projects to pursue international media coverage through clear, concise and accurate news releases written by experienced science writers.

NRAPの契約をRUCとしてAAASと行い、RUC参画機関で活用。



使用希望の大学・研究機関は、座長ならびに幹事機関にご連絡ください。

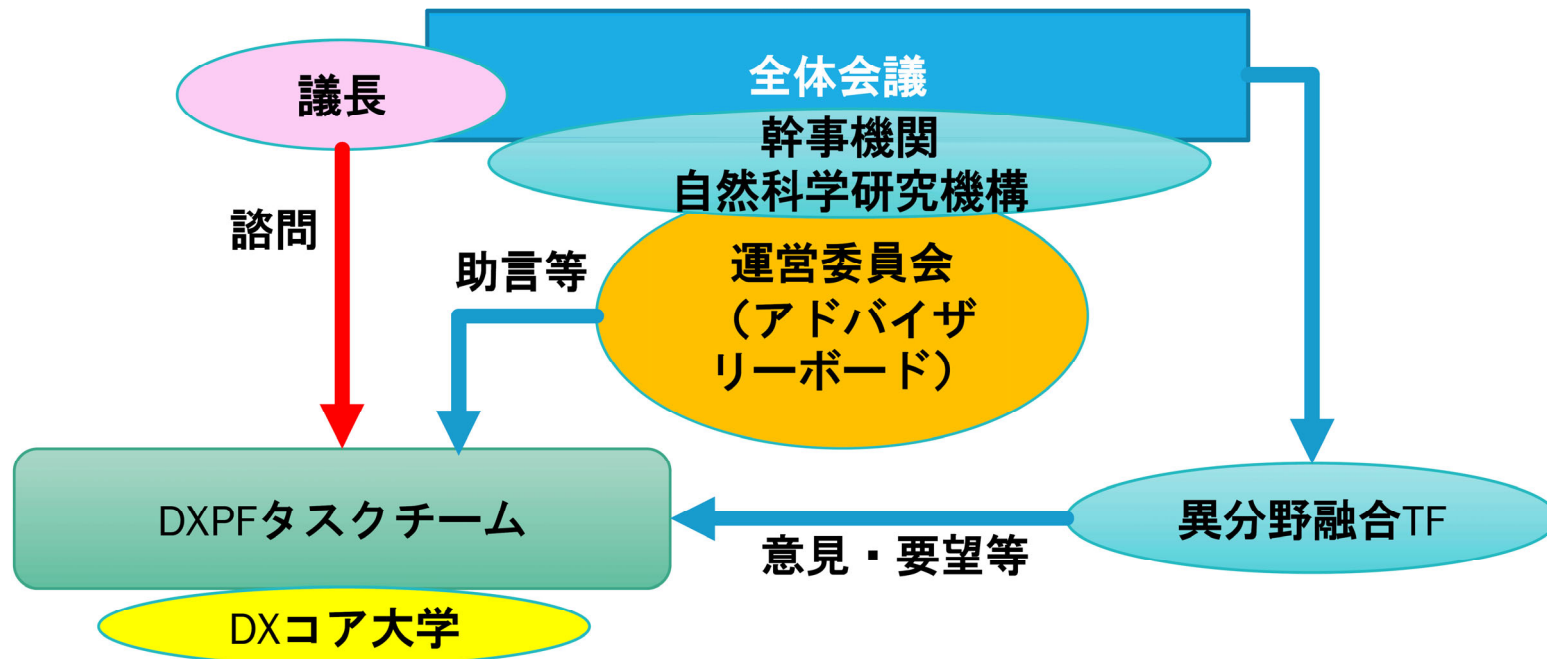
異分野融合 タスクフォース

座長

東京工業大学 研究・産学連携本部 研究戦略部門長
新田 元

異分野融合タスクフォース

MIRAI-DXの「ポストコロナ」試行等に関連して、異分野融合TFとして、異分野融合をURAが進めていく上での課題や、DXPF構築・運用の在り方について議論



異分野融合タスクフォース

異分野融合TF提言

分野や機関の枠をこえた共同研究を推進する基盤としての研究支援DX

課題

マッチングはデータだけでなく、URA同士の繋がり、アナログ的な目利きが重要

機関内

- ・各機関内独自・市販のDB（データベース）は既に存在し、活用している
- ・導入したいがシステム（ツール）開発に費用と手間がかかる

機関外との連携

- ・ニーズ・シーズのマッチングを機関外まで広げたい
- ・機関間で共有することが有用な情報はセキュリティ上共有が難しいものが多い

マッチング、ファンド、助成後のフォローや追跡評価が出来ていない

Solution

1. 各機関の環境に応じて、分野や機関の枠を超えて機関間の連携を可能とする共通プラットフォーム基盤の構築
2. 各機関内独自・市販のDB（データベース）のフォーマットの共通化、導入・活用支援のほか、独自に開発が難しい機関向けには機関内で活用可能な（安価に導入できる）マッチングシステムのツール開発支援
3. マッチングした研究グループのトレース、フォローアップ、成果の追跡評価ができる研究データベースとの連携
4. URA同士の活動を可視化し、ネットワーキングし、コミュニケーションを促進する共創の場の構築

Frqfhsw

URAの共創のための共通DX環境の構築

1

各機関や市販の研究DB等と連携した 共通プラットフォーム基盤

- ・科研費・外部資金・論文等の研究情報を既存DBとの連携によって、研究者毎の情報を横串でかつ安価に活用可能
- ・どこまでのDBを利用するか、供出するかは各機関が選択できるスケーラブルな構成
- ・異分野融合で支援したチームのトレースやフォローアップ、その通知を可能とする

2

URAの共創の場の構築

- ・URA同士の活動を可視化し、ネットワーキングを可能とする
- ・共通プラットフォーム基盤を共通言語として、機微な情報はURA同士の目利き力で研究のマッチングを行うバーチャルな共創の場を設定
- ・UJAとの連携により、海外研究者の研究シーズとのマッチングを促進する

3

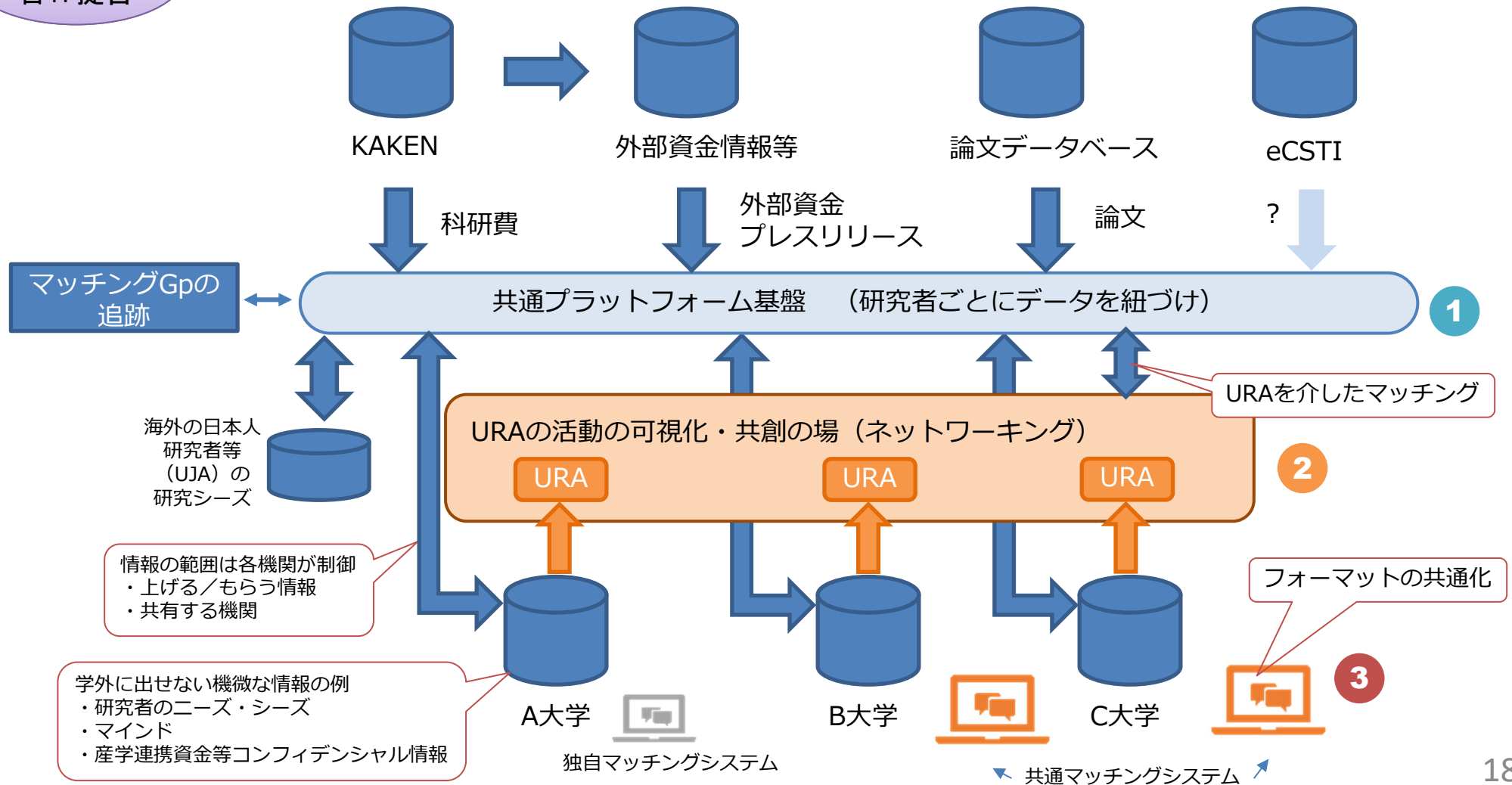
各機関におけるマッチングシステムの 導入・ツール開発支援

- ・フォーマットを共通化し、機関間のマッチングを視野にいたした各機関のマッチングシステムの導入支援
- ・独自に開発が難しい機関向けには、C4RA等と連携して共通のマッチングウェブツールの開発等を支援

異分野融合タスクフォース

異分野融合TF提言

(補足) システム構成イメージ



異分野融合タスクフォース

異分野融合TF提言

「URAの共創のための共通DX環境の構築」 必要と考えられる機能について（意見のまとめ）

1

各機関や市販の研究DB等と連携した 共通プラットフォーム基盤

機能例

- ・研究者に関する情報管理機能
③の学内DBとの連携により機関内外の情報をシームレスに把握
- ・②と連動した機関間におけるシーズとニーズのマッチングのための仕組み
- ・マッチングの省力化のためのAI等による情報抽出・検索機能
- ・マッチングしたグループの追跡を可能とする機能 - 異分野融合研究Gpのトレース機能等

Point

- ・既存のDBシステムとのすみ分け（ビブリオメトリクス等分析ツール・分析情報とのデマケ）
- ・システムの自由度を確保して、構築後のメンテナンスを容易にする仕組み
- ・コンフィデンシャルなデータの開示範囲／項目は各機関が制御できること
- ・研究者の識別子による名寄せの精度の高さ
- ・幅広い研究者を対象とした検索
- ・学際的な外部資金情報（国プロ・財団等）の集約

2

URAの共創の場の構築

機能例

- ・URAのマッピング、活動の可視化
- ・研究者マッチングのための、URAを介した機関間のやりとりの場
- ・異分野融合の好事例の共有と発信
- ・異分野融合に関する質問掲示板機能
- ・文理融合の推進のためのチーミングやファシリテーション技術の習得、そのための研修等
- ・自治体、企業等のステークホルダーのマッチングへの巻き込み（対象の拡張）

3

各機関におけるマッチングシステムの 導入・ツール開発支援

機能例

- ・各機関のシステムと①をシームレスに接続できるブリッジ機能
- ・ツールに限らず、各機関での好事例を集めて類型化
→URA同士が、網羅的に閲覧・発信できる仕組みを②と連携させて実現

Point

- ・システムやフォーマットの共通化を前提とするのではない自由度の担保

異分野融合TF
座長：新田元（東工大）

研究大学コンソーシアム その他の取組

●「RUCエグゼクティブセミナー」「RUC人材育成ワークショップ」の実施

これまで、研究大学コンソーシアムでは、各タスクフォースのテーマに関する勉強会等を実施するなどしてきたが、2019年度から、タスクフォースのテーマ以外でも、研究大学群にとって有益と思われるテーマについては、研究力向上に寄与する取組を実施することとしている。なお、実施にあたっての企画・運営は幹事機関において行うものとする。

2021年度は前年度に引き続き、以下の取組を実施することとする。

(1)RUCエグゼクティブセミナー(1回)

対 象： 研究大学コンソーシアム全体会議メンバー(理事・副学長等)

テーマ：大学における研究力強化に資するもの(EBPMなど)

(2)RUC研究力強化人材育成ワークショップ(研修会)(2回)

対 象： 研究力強化に携わるURAや事務職員など

テーマ： 大学における研究力強化に資するもの(EBPMなど)

研究大学コンソーシアム エグゼクティブセミナー

研究大学コンソーシアム エグゼクティブセミナー 「デジタル立国時代の研究大学の研究力強化」

コロナ禍という未曾有の危機にある今、ポストコロナを見据え、従来の考え方を脱した「新しいスタイル」の模索がすすんでいます。その際、デジタル技術の活用は日本のこれからを考える上で極めて重要な要素となっています。大学における研究力強化においても、デジタル技術の活用はもとより、デジタル・トランスフォーメーションが喫緊の課題となっていますが、まだ十分に浸透しているとはいえません。こうしたデジタル立国の流れの中で、研究大学における研究力強化に資する考え方や進め方について、各分野の有識者からお話を伺いました。

開催日時: 令和3年9月10日(金) 13:30-16:30

開催方法: オンライン開催

※医療系産学連携ネットワーク協議会 (medU-net) と共催

プログラム

- ・開会挨拶 研究大学コンソーシアム全体会議議長 山本 進一
- ・挨拶・説明 飯田 香緒里 (東京医科歯科大学 教授、medU-net 事務局長)
- ・講演
 - 「Googleでの製品開発マネジメント」 徳生 裕人 (Google LLC, Group Product Manager)
 - 「バイオ・ヘルスケア関係のデジタル化とビッグデータめぐる諸問題」
吉澤 尚 (GRiT Partners 法律事務所/内閣官房バイオ戦略有識者)
 - 「アカデミアと産業界をつなぐ IoT/AI ヘルステックベンチャー 2030 年の働き方と考え方」
森 啓悟 (ジーワン株式会社 代表取締役 CEO)
 - 「研究データの利活用をめぐる政策の動向」
坂下 鈴鹿 (東京医科歯科大学 統合研究機構事務部長)
- ・ディスカッション

研究大学コンソーシアム 研究力強化人材育成ワークショップ

2つのタスクフォースを主体としたワークショップを開催する。

1) 国際情報発信タスクフォース

(想定されるテーマ)

日本の大学からの国際情報発信に関する諸課題や好事例
AAAS の EurekaAlert!との連携などについて
その他

2) 研究力分析タスクフォース

(想定されるテーマ)

大学の研究 IR の実務上の課題
大学の研究力をいかに測るか
研究力を測る新たな指標
人文社会系研究の評価
ベンチマーク手法や世界大学ランキングについて
その他

研究大学コンソーシアム としての推進事業

DXプラットフォームの構築（MIRAI-DX）
INORMS2021広島大会の支援

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

DX-PF プラットフォームの理念

DX-PFで作りたい世界は、各大学のパイの取り合い競争を激化させることなく、社会的政策的ニーズに応える研究開発プロジェクトの企画者・運営者としてURAが共創する世界である

プラットフォームの世界観

理念（サービスコンセプト）

機能要件の前提となるポリシー

競争から共創へ

- 分野や機関の壁を超えた、ミッションオリエンテッドな研究プロジェクトのためのプラットフォームである
- URA個人の活躍やスキルが可視化され共有される
- 組織を超えたURAのコミュニケーションを促進する
- URAの支援業務の効率を上げ、URAならではの価値創出を最大化する

Multidisciplinary trans-Institutional Research
Assistance Initiative (MIRAI)-DXの推進

大学の「未来」を作り出す推進力になる

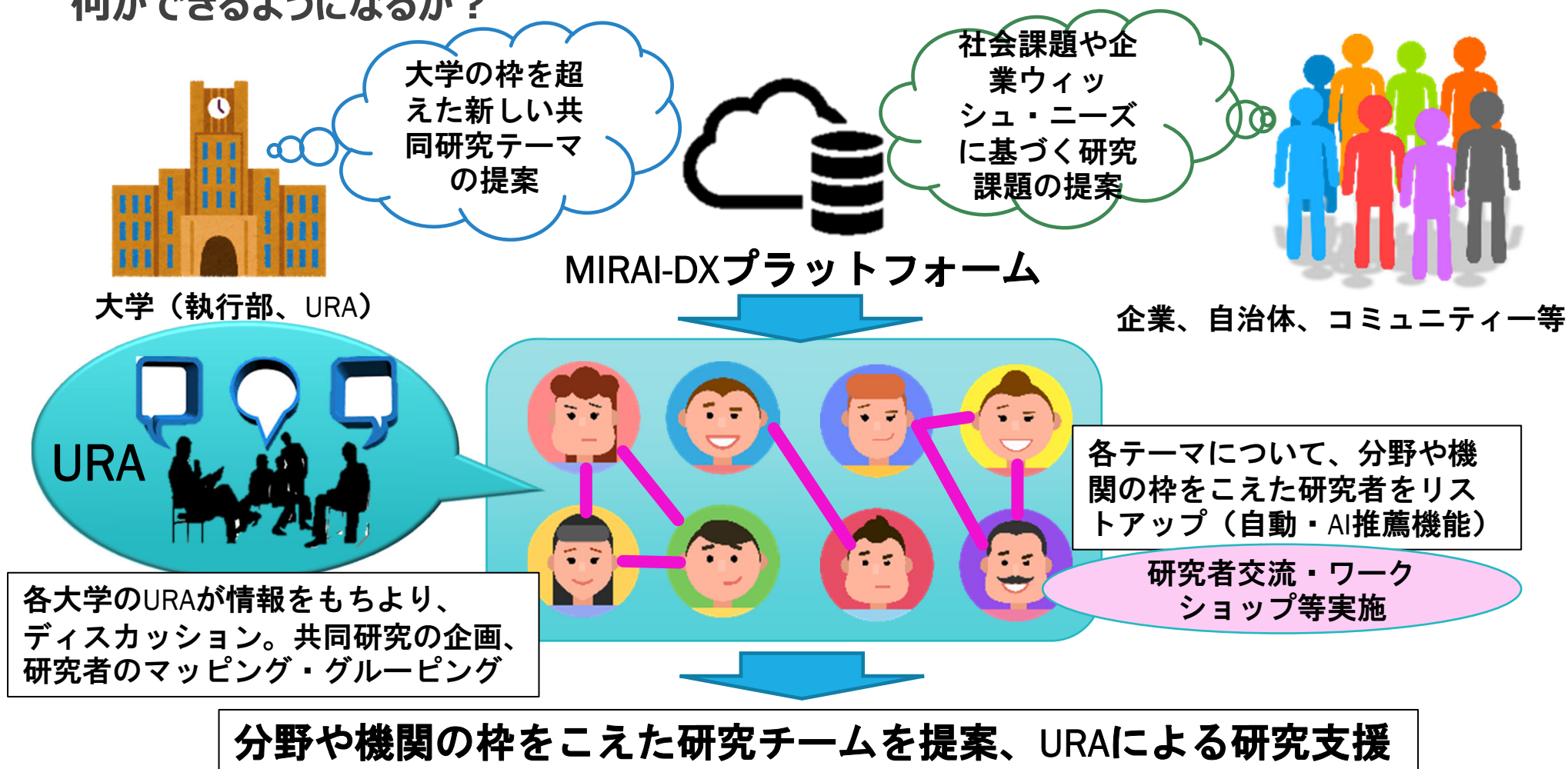
URA x DX



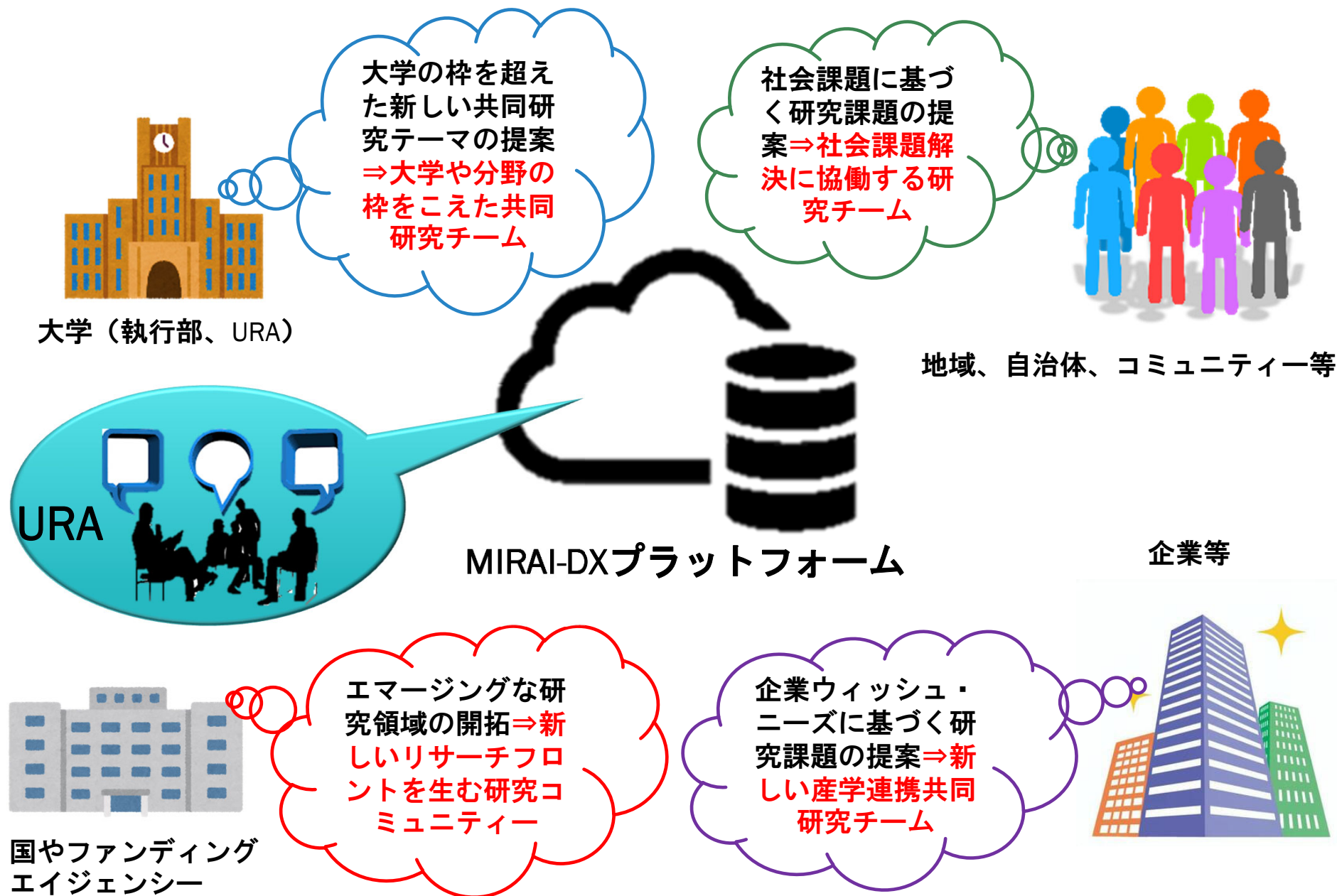
MIRAI-DX

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

何ができるようになるか？



研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築



研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

2021年度RUCにおける MIRAIプロジェクト 試行のテーマ

まず、トライアルのテーマを設定し、DX整備の前（2021年4月以降）に、URA共創・人的試行的にRUC参画機関のURA同士の情報交換により、研究者マッチング・研究チーム立案から、研究費獲得支援までURAが伴走し実施してみる。

DXプラットフォーム整備後に、同じことをDXでも実施し、DXの効果を検証する。

- **トップダウン 社会課題 「ポスト・コロナ」**
目的は、機関の枠を超えた共同研究企画立案
RUCのすべての希望する大学から、研究者を推薦していただく
- **ボトムアップ課題の検証も必要**
大学からボトムアップで出してもらおうSDGsに関するテーマ
興味のある大学と大学をつなぐ、目的は様々（大型資金獲得・産学連携など）
例： 障がい者との共生のための医工連携など

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

「ポストコロナ」試行中 研究大学コンソーシアム36機関で実施中

36大学に呼びかけ。
113名の研究者から
「ポストコロナ」をテーマとした
共同研究提案を集約。



研究者1名につき1名以上の伴
走URAが必ず付くという条件



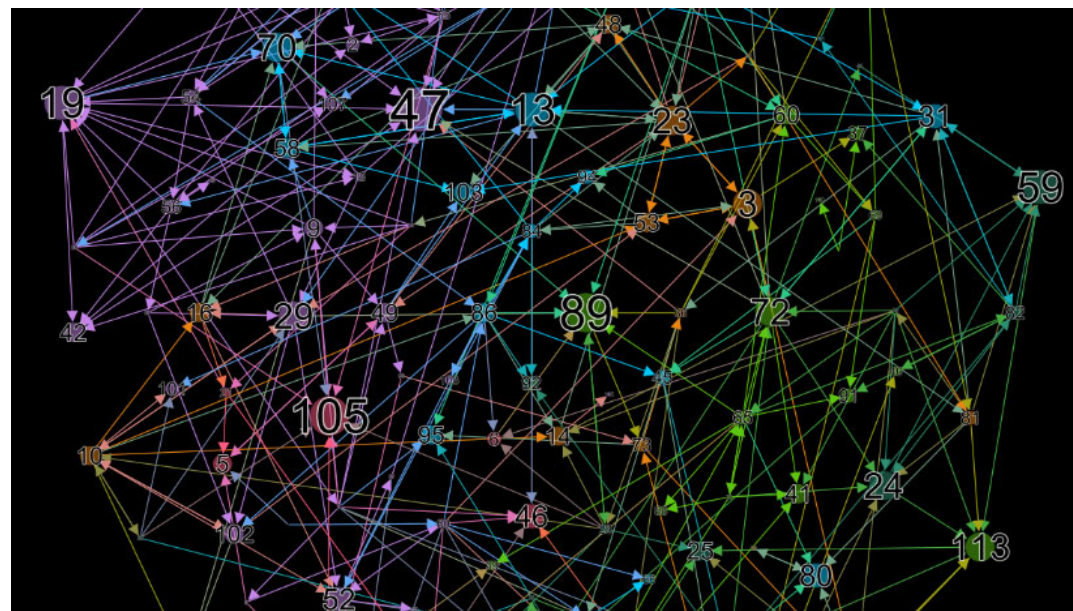
113名の提案情報をリスト化



互いのインタレストを集約（図）



これらの情報をもととし、伴走URA
同士でSlack上でコミュニケーションし、MIROを活用しながら研究者
のグループ提案をすすめている



- ・ 集約した研究者情報を基礎として、URAのネットを介した活動により、多機関・多分野の意見の集約を図ることができた。
- ・ 「ポストコロナ」のようにターゲットとなる研究者が誰なのかが不明確な場合でも、適切であろう研究者集団を見つけ、連携することができた。
- ・ トップダウンの課題にボトムアップからの意見を入れることができた。

今後、

- ・ 多機関・異分野間の連携（産学連携を含む）を積極的に進める場合にも利用できるのではないか？

研究大学コンソーシアム DXプラットフォームの構築

本事業による最終ゴール： 理想的な未来

◎本DXを活用することで、分野や機関の枠をこえた新規の研究コミュニティが醸成され、**日本発の研究フロント**が次々と生まれる ⇐ DXで加速

◎本DXがポータルサイトとして機能し、大学・研究者だけでなく、**産業界はじめ社会との連携も含め、適切な相手と適切につながる**ことができる。

◎本DXを活用することで、**喫緊の社会課題解決にむけた研究ドリーム・チーム**をつくることができる。

INORMS2021広島大会の支援



<https://inorms2021.org/>

INORMS に加盟している20団体



INORMS 2021 大会関連の各委員会（敬称略）

組織委員会

委員長：越智光夫（広大 学長）
副委員長：高橋真木子（金工大 教授）、安倍学（広大 理事副学長）
委員：松井一貴（広島市 市長）、池田晃治（広島観光コンベンションビューロー 理事長）、
小谷元子（東北大 理事・副学長（研究））、山本進一（研究大学コンソーシアム全体会議議長）
John Westensee（SRA International元会長／オーストラリア大学）

プログラム委員会

委員長：三宅雅人（奈良先端）
委員：杉原忠（OIST）、村上壽枝（東大）、Kate Harris（東大）、三代川典史（広大）

実行委員会（*のマークは各チームリーダーを示す）

委員長：三代川典史（広大）
【集客プロモーション戦略チーム】
園部太郎*（京大）、栗原翔吾（筑大）、王鴻香（長大）、陳晨（筑大）
<前> 加藤英之（筑大）、磯部靖博（広大、現在は東工大）
【スポンサー獲得戦略チーム】
十津川剛*（都立大）、石田貴美子（同大）、天ヶ瀬晴信（広大）
【パブリシティチーム】
Jason Sanderson*（熊大）、坂井華海（熊大）
<前> 岩崎球哉*（阪大）、David 今羽右左（京大）、Emma Buchet（広大）、Rachel Webber（広大）
【財務・登録チーム】
清戸義博*（広大）
<前> 小左古学*（広大）
【ローカル運営チーム】
荒木裕子*（広大）、田尾若菜（広大）、Adina Staicov（広大）、Roehl Sybing（広大、現在は同大）
<前> 打越さおり*（広大）、片平卓志（広大）

Technical Advisors

John Westensee（SRA International元会長／オーストラリア大学）、Elliott Kulakowski（SRA International元CEO）

研究大学コンソーシアムのセッション

